

岩手山（南部富士・2038. 1m）



「鬼ヶ城の稜線から岩手山を見る。」

期 日 2013年7月7日～10日

参 加 石川誠 他1名

行 程 7/7日 東北新幹線で盛岡経由八幡平温泉泊

7/8日午前中晴れ午後から小雨目稜線雨、強風、濃霧

宿舎 8:30-9:05 七滝コース登山口 9:15~10:50 一服峠 11:00-12:15 大地獄谷 12:25
—お花畑・御苗代湖経由 12:45—分岐 12:55~15:30 不動平避難小屋経由 15:40~16:00
八合目避難小屋着 泊



「ミズナラの新緑が美しい」

例年より一段と早く関東地方の梅雨明けが発表され、その影響から東北地方に梅雨前線が停滞して天気はあまり良くなかった。

しかし、東北地方も梅雨入りにも関わらず

7/1日の岩手山・山開きには地元滝沢村はじ周辺の各市町村から柳沢コースはじめ各コース1200名の登山者が好天の中登山し、頂上のお釜の周りには集団で登山者が旗を振り記念登山を祝ったと報じていた。

この集中登山は、来年1月1日をもって滝沢村が滝沢市に昇格する記念登山ということで、各市町村の村長はじめ多くの村民が集って登山したとのことである。

宿舎から県民の森の中歩くこと、30分ほどで七滝コース登山口に到着する。新緑が美しいミズナラの森の中平らな道を進む、春セミやカッコウの鳥の音が聞こえまさに森林浴をしながらの清々しい道である。

そして30分ほどで最初の滝に到着。この滝は雪解け水を集めてその落差25mの滝壺へ轟々と轟かせ流落ちる様はまさに壮観である。しばらく森の中を歩き、ぬかるみの道を徐々に高度を上げると大地獄谷の入り口である。右上には黒倉山が聳え、昔、湯の華の採取跡を過ぎると周辺は硫黄の匂いが漂い噴気を上げている。

稜線へ向かうルートは30m位か大した距離ではないのだがリッジ状となり岩の上に小砂利をまぶした

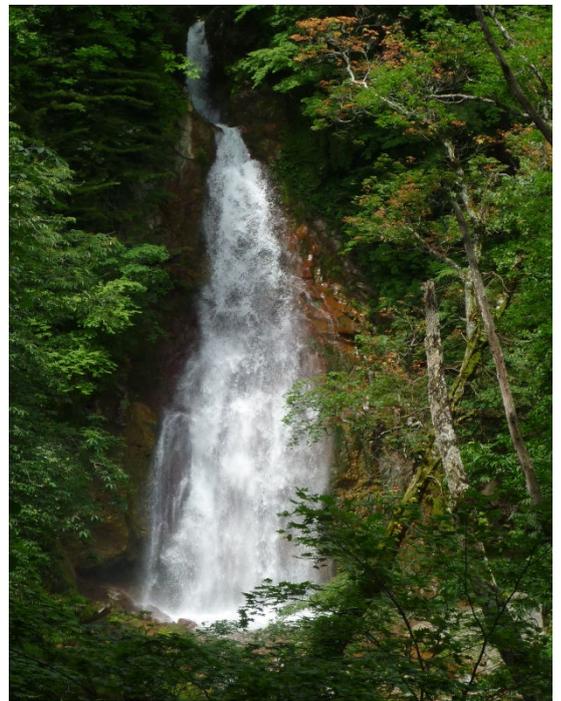


滑りやすい道で、滑り落ちると厭らしい。案内にも難関と書かれていたが、足場がないのでキックステップで小さなスタンスを作りながら

慎重に上り詰める。

この箇所を

抜ければ切通しとの分岐点。ガスの中に見え隠れする鬼ヶ城の稜線の下を御苗代湖の畔からお花畑へと向かう。ここにはコバイケイソウイ、イワカガミ、シャクナゲの花など多くの高山植物を見ながら先へ急ぐ。お花畑の分岐から不動平への道を辿る。



「多くの滝が架かっている」



「大地獄谷」



「イワカガミ」

この頃には雨も本降りとなり、雨具を着込む。蒸し暑いことこの上ない。

不動平の避難小屋は強風と濃霧の中にあった。この避難小屋から頂上にはほんの少しの距離だが強風と濃霧甚だしく視界不良の為、明日の天気を期待して頂上は諦め、八合目の小屋へ進み15分ほどで到着する。

入口を開けるとなんと岩手山岳協会顧問の工藤洋司さんとバツタリ、2年前であろうか東京で開催された日山協創立50周年祝賀会でお会いして以来の再会である。この避難小屋は岩手県が



「ハクサンチドリ」

く頃には小ぶりとなって時折薄日も射すが、身体は蒸れて汗でグッショリ、登山口にある水場で登山靴や雨具の汚れを落とし、頼んだタクシーを待つ。そこから30分ほどで八幡平温泉宿舎

建設し、夏場の維持管理を委託され協会員が交代で管理しているとのこと、まさに偶然の再会に驚く。

早速手続きをして指定された寝場所で、濡れたものを乾かしながらくつろぐ。

風雨は強く夜明けになっても吹き荒れていた。

7/9日（雨風強し）避難小屋 6:45-柳澤コース経由旧道を下る 8:30 三合目一馬返し登山口 10:30 着

風雨激しき中、雨具を着込みひたすら旧道を下る。3合目に着

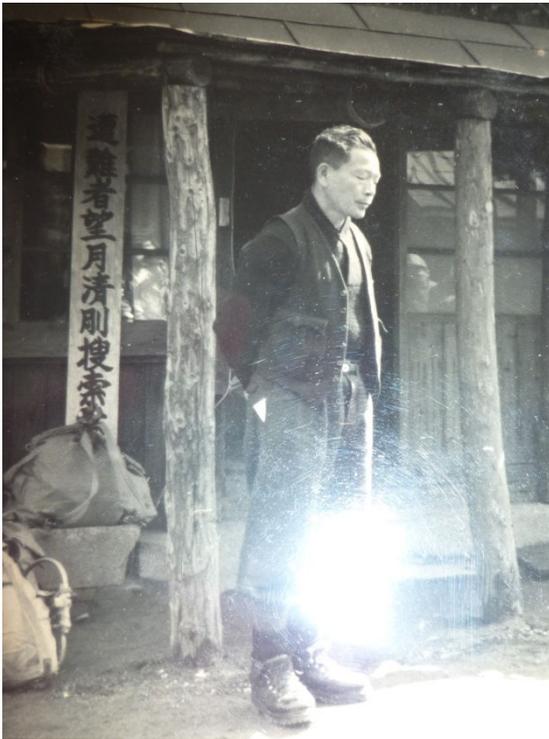


「岩手山岳協会・工藤洋司氏と」

一口メモ

工藤七郎氏（岩手県山岳連盟会長）にお世話になった経緯 昭和37年冬、職場の方が単独で八幡平へ山スキーに出かけ行方不明となった。山岳部として看過できず、捜索活動に協力することになり、私にも新人であるが何か役に立つだろうと参加要請が回ってきた。

翌年5月連休を利用して岩手県警察本部、岩手県山岳連盟、秋田県山岳連盟の方々のご協力を得て、松尾鉾山の派出所を捜索本部とし、八幡平の藤七温泉を前線基地として、捜索活動を展開したが現在に至る



「捜索隊長の今は亡き工藤七郎岩手県岳連会長」

も発見できていない。捜索活動は各県の山岳連盟協会員の方々、地元のマタギの方々など総勢4、50名は居たろうか。

その時に全体の指揮を取られたのが、今回の山小屋でお会いした工藤洋司氏の父上である工藤七郎氏であり、そのご縁でご挨拶した経緯があった。その時も私の父を知っていた方と会うことが出来たのは大変うれしく、懐かしと喜んで戴いた。



「捜索隊出発式 松尾鉾山にて」

当時、一線で捜索活動を展開して頂いた、岩手県警職員で、盛岡山想会々員でもあった出堀宏明

氏にも祝賀会でお会いしたが、お世話になった今は亡き工藤七郎氏を含め当時を思い出が懐かしく甦ってくるのである。

出堀氏が持参し、一際輝いていた山ノ内藤一郎作の美しいピッケルが、今だに目に焼き付いているのは、若き日に受けた強烈な思い出でもある。

2013年7月 記録 石川 誠



『焼走り溶岩流から見上げる岩手山』



「岩手県山岳協会作成の手拭い」